

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
考えをもつ場【拡散的思考】	①	安土桃山時代～江戸初期までの出来事をまとめ、時代を大観する。	A ・資料を基に、安土桃山時代～江戸時代初期の出来事、江戸時代の政治や江戸時代の民衆の生活・産業の様子などをまとめ、時代の特色を踏まえながら理解している。	・追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。	・時代の特色を捉えた上で、追究課題を追究しようとするともに、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。	
	②	江戸幕府の政治の仕組みについて捉える。				
	③	江戸時代の農民や町人の生活・産業について捉える。	B ・資料を基に、安土桃山時代～江戸時代初期の出来事、江戸時代の政治や江戸時代の民衆の生活・産業の様子などをまとめ、理解している。	・追究課題について、切り口を考察した上で意思決定している。	・時代の特色を捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。	
	④	時代の特色を捉え、追究課題を確認する。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M①】				
		追究課題「安定した世の中をつくるために、最も重要な役割を果たした人物は誰か」 切り口A「信長」 切り口B「秀吉」 切り口C「家康」	○発言の内容(①～③) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(④) ○「ステップチャート」の記述内容	
考えを広げる場【拡散的思考】	⑤	「信長」の業績が、支配者と被支配者に及ぼした影響について捉える。	安定した世の中をつくることにつながる点(☆)・つながらない点(★)			
	⑥	「秀吉」の業績が、支配者と被支配者に及ぼした影響について捉える。	信長 ☆長篠の戦いでは、鉄砲を使って武田の騎馬軍を破り、全国統一に向けて国をまとめていった。 ☆近江に安土城を築城し、交通の要所を押さえることで、軍事面、経済面において有利になった。 ★石山本願寺との戦いに10年を要するなど、一向一揆との戦いに苦戦した。 ★家臣の意見には耳を貸さないところがあり、明智光秀の裏切りによって、自害した。	被支配者の立場 ☆楽市楽座によって、座の規制がなくなり自由に商売ができるようになった。 ☆関所が撤廃され、領内を自由に行き来できるようになった。 ★比叡山延暦寺の焼き討ちのように、女、子供にも容赦なく仏教勢力は弾圧された。 ★自治都市として発展してきた堺であったが、信長の支配下におかれると、税を要求され屈服した。		
	⑦	「家康」の業績が、支配者と被支配者に及ぼした影響について捉える。		秀吉 ☆山崎の戦いで光秀を破り信長の後継者となり、奥州平定をもって全国統一を果たした。 ☆主要鉱山や重要都市を直轄し、莫大な財政基盤をもって全国を支配した。 ★二度の朝鮮出兵を試みるが、どちらも朝鮮軍の反撃に遭い、莫大な被害を伴い撤退した。 ★関ヶ原の戦いにおいて、豊臣方の領地が没収されたため、死後は影響を与えることができなかった。	☆刀狩令によって、兵農分離が徹底され、農民は農業に専念することができた。 ☆大坂城下町を整備することで、大坂の町が経済・流通の中心となった。 ★パテレン追放令によって、キリスト教徒を弾圧した。 ★太閤検地によって、一人一人の石高が明確になり、石高の3分の2を納めさせられた。	
	⑧	意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M②】【M①】	家康 ☆武家諸法度(元和令)によって、城の新築禁止や許可なく結婚できないなど、大名の統制がとられた。 ☆外様大名を江戸から離れた配置にしたり要職につけないようにしたりして、幕府転覆を未然に防いだ。 ★大名の改易によって、多くの浪人が出ることで治安が悪くなり、治めづらくなった。 ★大阪冬の陣では、真田幸村の猛攻にあい、大阪城を落とすことができなかった。		☆朱印船貿易が奨励され、東南アジアに商人が進出し日本町が形成され、多くの利益を得た。 ☆江戸の町の水脈を整え、不毛だった地を、農業に適した地として、生産高が増えた。 ★禁教令によって、キリスト教が禁止となり、貿易をオランダと中国に限定させられた。 ★幕府による農民支配によって、年貢を多く取り立てられた。	
	⑨	【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M③】【M②】		A ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について、支配者と被支配者の立場ごとに整理して理解している。	・追究課題について、振り分けられた立場に立って資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとするともに、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。
			B ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について理解している。	・追究課題について、資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。	
			方法 ○発言の内容(⑤～⑦) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(⑧・⑨) ○「ステップチャート」の記述内容	
	考えを創り上げる場【収束的思考】	⑩	【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どうすれば安定した世の中をつくれるか」について考える。【RM①】 <b>概念的知識「支配者が強い権力をもち、被支配者が支配者を信頼することができれば、安定した世の中をつくることができる」</b>	集団の討論で予想される生徒の発言例 切り口B「秀吉」を選んだ生徒の主張例 ・切り口B「秀吉」は、刀狩令によって農民の勢力を抑え、主要鉱山や重要都市を直轄し、莫大な財政基盤をもって強い権力をもち、秀吉が全国統一を成し遂げた後は、亡くなるまで大きな反乱は起こっておらず、被支配者からも信頼を得ていたと考えられる。 切り口B「秀吉」の主張に対する反論例 ・全国統一は成し遂げたが、秀吉の政治は長く続いていないため、そこまで強い権力をもちたとは言えない。また、刀狩令や二度の朝鮮出兵により、武士や農民は秀吉の政治に不満をもちたと考えられ、被支配者から信頼を得たとは言えない。 切り口B「秀吉」を選んだ生徒の再反論例 ・切り口Aの「信長」は全国統一を成し遂げておらず、切り口Cの「家康」も、全国統一までの道には秀吉の力が不可欠であり、自分の力で強い権力をもちたとは言えない。また、「本能寺の変」を起こされた信長の失敗をいかし、部下や民衆から謀反を起こされないようにしたこと、信頼を集めて自分の地位を確固たるものにできたと考えられる。 切り口B「秀吉」を選んだ生徒の最終的な主張例 ・切り口B「秀吉」は、支配者の立場からは、山崎の戦いで明智光秀を破り信長の後継者となり、奥州平定をもって全国統一を果たし、権力を得て国をまとめていった。被支配者の立場からは、刀狩令によって兵農分離が徹底されることで、農業に専念することができ、生活が向上した。よって、安定した世の中につながる最も重要な役割を担った人物は、切り口B「秀吉」である。		
		⑪	【集団の討論】 概念的知識を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを学級全体で議論する。			
⑫		概念的知識を他の時代に当てはめて考える。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【収M①】【M③】	A ・概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。	・追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとするともに、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。	
⑬		単元テストを行う。	B ・概念的知識を理解している。	・追究課題について、概念的知識の一部を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。	
		意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。【拡・収RM①】【RM②】	方法 ○発言の内容(⑫) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容(⑩・⑪) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度									
考えをもつ場【拡散的思考】	①	欧米の産業革命や市民革命にかかわる出来事をまとめ、中世から近世の世界の動きを大観する。	A ・資料を基に、中世から近世の世界の動きと江戸時代中期から後期の時代の出来事をまとめ、時代の特色を踏まえながら理解している。	・追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。	・時代の特色を捉えた上で、追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
	②	江戸時代の民衆の生活の様子や文化について捉える。												
	③	江戸時代中期から後期の時代の出来事をまとめ、時代を大観する。	B ・資料を基に、中世から近世の世界の動きと江戸時代中期から後期の時代の出来事をまとめ、理解している。	・追究課題について、切り口を考察した上で意思決定している。	・時代の特色を捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
	④	時代の特色を捉え、追究課題を確認する。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M①】												
			追究課題「世の中の乱れを立て直すために、より重要だった改革はどちらか」 切り口A「武士に対する改革」 切り口B「民衆に対する改革」	○発言の内容(①～③) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(④) ○「ステップチャート」の記述内容								
考えを広げる場【拡散的思考】	⑤	「武士に対する改革」が、支配者と被支配者に及ぼした影響について捉える。	世の中の乱れを立て直すことにつながる点(☆)・つながらない点(★)											
	⑥	「民衆に対する改革」が、支配者と被支配者に及ぼした影響について捉える。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>支配者の立場</th> <th>被支配者の立場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>武士に対する改革</td> <td>☆享保の改革での「上米の制」により、収入が増えて、権力が上がる。 ☆享保の改革で武士に武芸を奨励し、「足高の制」を出したことにより、より有能な武士を登用できる。 ☆寛政の改革での「棄捐令」により、武士の借金を帳消しにして、武士の信頼を得ることができる。 ★天保の改革での「上知令」により、武士の領地や収入が減って、幕府への不満が高まる。</td> <td>☆享保の改革での「公事方御定書」により、不当に裁かれることがなくなる。 ☆藩の改革での藩校での教育により、学問を身に付ければ藩に登用してもらうことができる。 ★享保の改革での「上米の制」により、広い領地をもつ藩の負担が大きくなる。 ★寛政の改革での「棄捐令」により、商人が武士に貸し出した借金が返ってこなくなり、商人の不満が高まる。</td> </tr> <tr> <td>民衆に対する改革</td> <td>☆享保の改革での「検見法から定免法への改正」によって、凶作でも収入が安定する。 ☆田沼の改革の「株仲間の奨励」により、幕府の収入を増やすことができる。 ☆寛政の改革・天保の改革の「儉約令」により、ぜいたくな生活を禁じ、税収を上げることができる。 ★享保の改革の「新田開発」により年貢の増収をねらうも、米価が上がり、経済が不安定になる。</td> <td>☆享保の改革の「目安箱の設置」によって民衆の意見を政治に取り入れてもらうことができる。 ☆寛政の改革の「困米」によって、飢饉や天災の際にも生活に困窮しなくなる。 ★田沼の改革の重商主義によって、商人の重用されるようになり、武士の立場が弱くなる。 ★寛政の改革・天保の改革の「儉約令」や娯楽の制限により、自由で豊かな生活ができなくなる。</td> </tr> </tbody> </table>				支配者の立場	被支配者の立場	武士に対する改革	☆享保の改革での「上米の制」により、収入が増えて、権力が上がる。 ☆享保の改革で武士に武芸を奨励し、「足高の制」を出したことにより、より有能な武士を登用できる。 ☆寛政の改革での「棄捐令」により、武士の借金を帳消しにして、武士の信頼を得ることができる。 ★天保の改革での「上知令」により、武士の領地や収入が減って、幕府への不満が高まる。	☆享保の改革での「公事方御定書」により、不当に裁かれることがなくなる。 ☆藩の改革での藩校での教育により、学問を身に付ければ藩に登用してもらうことができる。 ★享保の改革での「上米の制」により、広い領地をもつ藩の負担が大きくなる。 ★寛政の改革での「棄捐令」により、商人が武士に貸し出した借金が返ってこなくなり、商人の不満が高まる。	民衆に対する改革	☆享保の改革での「検見法から定免法への改正」によって、凶作でも収入が安定する。 ☆田沼の改革の「株仲間の奨励」により、幕府の収入を増やすことができる。 ☆寛政の改革・天保の改革の「儉約令」により、ぜいたくな生活を禁じ、税収を上げることができる。 ★享保の改革の「新田開発」により年貢の増収をねらうも、米価が上がり、経済が不安定になる。	☆享保の改革の「目安箱の設置」によって民衆の意見を政治に取り入れてもらうことができる。 ☆寛政の改革の「困米」によって、飢饉や天災の際にも生活に困窮しなくなる。 ★田沼の改革の重商主義によって、商人の重用されるようになり、武士の立場が弱くなる。 ★寛政の改革・天保の改革の「儉約令」や娯楽の制限により、自由で豊かな生活ができなくなる。
		支配者の立場	被支配者の立場											
	武士に対する改革	☆享保の改革での「上米の制」により、収入が増えて、権力が上がる。 ☆享保の改革で武士に武芸を奨励し、「足高の制」を出したことにより、より有能な武士を登用できる。 ☆寛政の改革での「棄捐令」により、武士の借金を帳消しにして、武士の信頼を得ることができる。 ★天保の改革での「上知令」により、武士の領地や収入が減って、幕府への不満が高まる。	☆享保の改革での「公事方御定書」により、不当に裁かれることがなくなる。 ☆藩の改革での藩校での教育により、学問を身に付ければ藩に登用してもらうことができる。 ★享保の改革での「上米の制」により、広い領地をもつ藩の負担が大きくなる。 ★寛政の改革での「棄捐令」により、商人が武士に貸し出した借金が返ってこなくなり、商人の不満が高まる。											
	民衆に対する改革	☆享保の改革での「検見法から定免法への改正」によって、凶作でも収入が安定する。 ☆田沼の改革の「株仲間の奨励」により、幕府の収入を増やすことができる。 ☆寛政の改革・天保の改革の「儉約令」により、ぜいたくな生活を禁じ、税収を上げることができる。 ★享保の改革の「新田開発」により年貢の増収をねらうも、米価が上がり、経済が不安定になる。	☆享保の改革の「目安箱の設置」によって民衆の意見を政治に取り入れてもらうことができる。 ☆寛政の改革の「困米」によって、飢饉や天災の際にも生活に困窮しなくなる。 ★田沼の改革の重商主義によって、商人の重用されるようになり、武士の立場が弱くなる。 ★寛政の改革・天保の改革の「儉約令」や娯楽の制限により、自由で豊かな生活ができなくなる。											
⑦	意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M②】【M①】													
⑧	【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M③】【M②】	A ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について、支配者と被支配者の立場ごとに整理して理解している。	・追究課題について、振り分けられた立場に立って資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。										
		B ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について理解している。	・追究課題について、資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。										
		○発言の内容(⑤・⑥) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(⑦・⑧) ○「ステップチャート」の記述内容										
考えを創り上げる場【収束的思考】	⑨	【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どうすれば世の中を立て直し、よりよい社会になるか」について考える。 【RM①】 概念的知識「支配者が権力を安定させ、被支配者の生活が向上すれば、よりよい社会になる」	切り口A「武士に対する改革」を選んだ生徒の主張例 ・当時の幕府は、財政の悪化や権威の低下に悩んでいた。そこで「上米の制」や「足高の制」により、収入を増やし、有能な人材を得ることを目指して改革し、成果を得た。また、「公事方御定書」を出すことにより、武士が不当に裁かれるのを防ぐことで、幕府への信頼も高めることができた。 切り口A「武士に対する改革」の主張に対する反論例 ・武士に対する改革は、結果として幕府に対して武士が不満をもつことが多かったと言える。江戸時代の人口の内訳は、大部分が農民や町人などの民衆であり、割合が少なかった武士に対して改革を行っても、効果は小さかったのではないかと。 切り口A「武士に対する改革」を選んだ生徒の再反論例 ・武士の人口の割合は多くないが、幕府を支えていたのは、鎌倉時代から武士である。江戸幕府は結果として武士の反乱によって弱体化していったので、当時の幕府は、そこまで力をもっていない農民や町人に対する改革よりも、幕府に対抗できる力をもつ武士に対する改革を優先して行うべきだったのではないかと。 切り口A「武士に対する改革」を選んだ生徒の最終的な主張例 ・飢饉や天災の影響を受けたことで効果は限定的だったが、「公事方御定書」や「棄捐令」など武士に対する改革を行ったことにより、幕末まで武士による大きな反乱は起こらず支配者の権力は安定し、武士の生活を厳しく統制したことで武士の生活は向上し、民衆の反乱を起こさずに済んだと考えられる。よって、切り口Aの「武士による改革」は概念的知識に当てはまり、世の中の乱れを立て直すためには、切り口Bの「民衆への改革」よりも重要な改革であったと言える。											
	⑩	【集団の討論】 概念的知識を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを学級全体で議論する。												
	⑪	概念的知識を他の時代に当てはめて考える。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【収M①】【M③】	A ・概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。	・追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
	⑫	単元テストを行う。	B ・概念的知識を理解している。	・追究課題について、概念的知識の一部を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
	⑬	意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。 【拡・収RM①】【RM②】	○発言の内容(⑩) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容(⑨・⑩) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容									

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度									
考えをもつ場 【拡散的思考】	①	幕末から明治時代の日本と世界の動きを年表にまとめ、時代を大観する。	A ・資料を基に、日本の近代化に関わる基本的な事項をまとめ、時代の特色を踏まえながら理解している。	・追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。	・時代の特色を捉えた上で、追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
	②	幕末の動きとその影響を捉える。												
	③	明治維新の概要とその影響を捉える。	B ・資料を基に、日本の近代化に関わる基本的な事項をまとめ、理解している。	・追究課題について、切り口を考察した上で意思決定している。	・時代の特色を捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
	④	時代の特色を捉え、追究課題を確認する。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【 <b>拡M①</b> 】												
			追究課題「条約改正に成功した最も大きな要因は何か」 切り口A「軍備の強化」 切り口B「産業・文化の発展」 切り口C「諸制度の整備」	○発言の内容 (①～③) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容 (④) ○「ステップチャート」の記述内容								
考えを広げる場 【拡散的思考】	⑤	「軍備の強化」が、国内と国外に及ぼす影響について捉える。	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">条約改正につながる点(☆)・つながらない点(★)</th> </tr> <tr> <th>国内の立場</th> <th>国外の立場</th> </tr> <tr> <td> <b>軍備の強化</b>                      ☆徴兵令によって、兵力が増えたり、最新式の武器を取り入れたりし、外国に対抗できるようになった。                      ☆日清戦争でもらった賠償金による軍備拡張や領土によって国力がさらに高まった。                      ★征韓論について政府内で対立しており、国の方針が定まっていなかった。                      ★日露戦争で賠償金がもらえず、国民が不満を抱いたり、国力が衰えたりした。                 </td> <td>                     ☆日朝修好条規を結んだことによって、日本の朝鮮への優越権を認めた。                      ☆日清戦争、日露戦争で立て続けに強国に勝利したことによって、列強が日本の強さを認めた。                      ★三国干渉で遼東半島を返還させたので、三国は日本を下に見ていた。                      ★「火中の栗」の風刺画では、日英同盟が対等な同盟ではなく、日本を下に見ていた。                 </td> </tr> <tr> <td> <b>産業・文化の発展</b>                      ☆お雇い外国人や官営模範工場の設営によって、技術力が外国に肩を並べられるようになった。                      ☆欧化政策や鹿鳴館の設立によって、近代化をアピールすることができた。                      ★工業生産力や鉄道の敷設などで列強とは大きな差があり、国力の差は大きかった。                      ★労働環境の水準は低く、労働者の不満は大きく、富国(豊かな国)になったとは言えなかった。                 </td> <td>                     ☆石炭の産出・輸出量が増えているので、外国が日本の資源を頼っていた。                      ☆富岡製糸場や八幡製鉄所などの官営工場の設立によって列強並みの技術力であることを外国が認めた。                      ★五榜の掲示でキリスト教の禁止が掲げられたことに対して列強が批判をしていた。                      ★お雇い外国人に技術を学んでいたため、対等な立場とは認めていない。                 </td> </tr> <tr> <td> <b>諸制度の整備</b>                      ☆地租改正によって、税収が安定し、安定した国家を築くことができた。                      ☆大日本帝国憲法や廃藩置県によって、天皇を中心とした中央集権国家を築くことができた。                      ★地租改正反対一揆が起き、地租を下げるなど、国内が混乱していた。                      ★大日本帝国憲法の内容を多くの国民は理解しておらず、国内がまとまったとは言えなかった。                 </td> <td>                     ☆憲法や議会が作られ、立憲政治の運用ができる国家だと認められた。                      ☆商法や刑法の制定によって、貿易などの外交面でも信頼度が高まった。                      ★アジア人には立憲政治が運用できないと思っており、日本を下に見ていた。                      ★天津事件で政府は裁判所に圧力をかけており、条約改正交渉も中断するなど、日本を認めていなかった。                 </td> </tr> </table>		条約改正につながる点(☆)・つながらない点(★)		国内の立場	国外の立場	<b>軍備の強化</b> ☆徴兵令によって、兵力が増えたり、最新式の武器を取り入れたりし、外国に対抗できるようになった。 ☆日清戦争でもらった賠償金による軍備拡張や領土によって国力がさらに高まった。 ★征韓論について政府内で対立しており、国の方針が定まっていなかった。 ★日露戦争で賠償金がもらえず、国民が不満を抱いたり、国力が衰えたりした。	☆日朝修好条規を結んだことによって、日本の朝鮮への優越権を認めた。 ☆日清戦争、日露戦争で立て続けに強国に勝利したことによって、列強が日本の強さを認めた。 ★三国干渉で遼東半島を返還させたので、三国は日本を下に見ていた。 ★「火中の栗」の風刺画では、日英同盟が対等な同盟ではなく、日本を下に見ていた。	<b>産業・文化の発展</b> ☆お雇い外国人や官営模範工場の設営によって、技術力が外国に肩を並べられるようになった。 ☆欧化政策や鹿鳴館の設立によって、近代化をアピールすることができた。 ★工業生産力や鉄道の敷設などで列強とは大きな差があり、国力の差は大きかった。 ★労働環境の水準は低く、労働者の不満は大きく、富国(豊かな国)になったとは言えなかった。	☆石炭の産出・輸出量が増えているので、外国が日本の資源を頼っていた。 ☆富岡製糸場や八幡製鉄所などの官営工場の設立によって列強並みの技術力であることを外国が認めた。 ★五榜の掲示でキリスト教の禁止が掲げられたことに対して列強が批判をしていた。 ★お雇い外国人に技術を学んでいたため、対等な立場とは認めていない。	<b>諸制度の整備</b> ☆地租改正によって、税収が安定し、安定した国家を築くことができた。 ☆大日本帝国憲法や廃藩置県によって、天皇を中心とした中央集権国家を築くことができた。 ★地租改正反対一揆が起き、地租を下げるなど、国内が混乱していた。 ★大日本帝国憲法の内容を多くの国民は理解しておらず、国内がまとまったとは言えなかった。	☆憲法や議会が作られ、立憲政治の運用ができる国家だと認められた。 ☆商法や刑法の制定によって、貿易などの外交面でも信頼度が高まった。 ★アジア人には立憲政治が運用できないと思っており、日本を下に見ていた。 ★天津事件で政府は裁判所に圧力をかけており、条約改正交渉も中断するなど、日本を認めていなかった。
	条約改正につながる点(☆)・つながらない点(★)													
	国内の立場	国外の立場												
	<b>軍備の強化</b> ☆徴兵令によって、兵力が増えたり、最新式の武器を取り入れたりし、外国に対抗できるようになった。 ☆日清戦争でもらった賠償金による軍備拡張や領土によって国力がさらに高まった。 ★征韓論について政府内で対立しており、国の方針が定まっていなかった。 ★日露戦争で賠償金がもらえず、国民が不満を抱いたり、国力が衰えたりした。	☆日朝修好条規を結んだことによって、日本の朝鮮への優越権を認めた。 ☆日清戦争、日露戦争で立て続けに強国に勝利したことによって、列強が日本の強さを認めた。 ★三国干渉で遼東半島を返還させたので、三国は日本を下に見ていた。 ★「火中の栗」の風刺画では、日英同盟が対等な同盟ではなく、日本を下に見ていた。												
	<b>産業・文化の発展</b> ☆お雇い外国人や官営模範工場の設営によって、技術力が外国に肩を並べられるようになった。 ☆欧化政策や鹿鳴館の設立によって、近代化をアピールすることができた。 ★工業生産力や鉄道の敷設などで列強とは大きな差があり、国力の差は大きかった。 ★労働環境の水準は低く、労働者の不満は大きく、富国(豊かな国)になったとは言えなかった。	☆石炭の産出・輸出量が増えているので、外国が日本の資源を頼っていた。 ☆富岡製糸場や八幡製鉄所などの官営工場の設立によって列強並みの技術力であることを外国が認めた。 ★五榜の掲示でキリスト教の禁止が掲げられたことに対して列強が批判をしていた。 ★お雇い外国人に技術を学んでいたため、対等な立場とは認めていない。												
	<b>諸制度の整備</b> ☆地租改正によって、税収が安定し、安定した国家を築くことができた。 ☆大日本帝国憲法や廃藩置県によって、天皇を中心とした中央集権国家を築くことができた。 ★地租改正反対一揆が起き、地租を下げるなど、国内が混乱していた。 ★大日本帝国憲法の内容を多くの国民は理解しておらず、国内がまとまったとは言えなかった。	☆憲法や議会が作られ、立憲政治の運用ができる国家だと認められた。 ☆商法や刑法の制定によって、貿易などの外交面でも信頼度が高まった。 ★アジア人には立憲政治が運用できないと思っており、日本を下に見ていた。 ★天津事件で政府は裁判所に圧力をかけており、条約改正交渉も中断するなど、日本を認めていなかった。												
	⑥	「産業・文化の発展」が、国内と国外に及ぼす影響について捉える。												
	⑦	「諸制度の整備」が、国内と国外に及ぼす影響について捉える。												
	⑧	意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【 <b>拡M②</b> 】【 <b>M①</b> 】	A	・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について、国内と国外の立場ごとに整理して理解している。	・追究課題について、振り分けられた立場に立って資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。								
⑨	【 <b>個々の討論</b> 】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【 <b>拡M③</b> 】【 <b>M②</b> 】	B	・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について理解している。	・追究課題について、資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
		方法	○発言の内容 (⑤～⑦) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容 (⑧・⑨) ○「ステップチャート」の記述内容									
考えを創り上げる場 【収束的思考】	⑩	【 <b>立場の討論</b> 】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どうすれば、国際的地位は向上するか」について考える。【 <b>RM①</b> 】  概念的知識「国内がまとまって国力を高め、国外から認められることができれば、国際的地位は向上する」	<b>集団の討論で予想される生徒の発言例</b> 切り口A「軍備の強化」を選んだ生徒の主張例 ・国内は、徴兵令が制定され、1889年には国民皆兵が実現したので、国民が統制されてまとまり、兵力も増えたので国力は高まった。国外は、日英同盟で対等な同盟を結んだり、日清・日露戦争で日本が大国に勝利したりしたことで、日本の国力を認めていた。 切り口A「軍備の強化」の主張に対する反論例 ・日清戦争後には、三国干渉で遼東半島を返還させられており、日本の動向を列強が認めていたわけではない。また、日英同盟でも「火中の栗」の風刺画にあるように、形だけ対等なだけであって、実際の立場はイギリスの方が上なので、完全に認められた訳ではない。 切り口A「軍備の強化」を選んだ生徒の再反論例 ・三国干渉は日本の兵力や朝鮮への進出に脅威をもったからこそその行動なので、日本の国力を認めていたと言える。風刺画では風刺されているが、ベルツの日記にあるように、対等な同盟であり、日本の大勝利と言っている人もいる。 切り口A「軍備の強化」を選んだ生徒の最終的な主張例 ・切り口Bは、欧米と比べると工業生産力や鉄道敷設率などは大きな差があるので、国力は高まったと言えない。また、お雇い外国人を雇っているため、国外から認められているとは言えない。切り口Cは、憲法の制定や議会の開設などによって天皇を中心とした立憲国家として国内はまとまっていったが、国外は、アジア人が憲法を運用できるか疑問視しており、認めていたとは言えない。それに比べ、切り口Aは、徴兵令や軍備拡張によってロシアに勝つほどの国力を高めることにつながり、イギリスやアメリカも日本の強さを認めているので、国際的地位は向上し、条約改正につながっていった。											
	⑪	【 <b>集団の討論</b> 】 概念的知識を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを学級全体で議論する。												
	⑫	概念的知識を他の時代や国に当てはめて考える。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【 <b>収M①</b> 】【 <b>M③</b> 】	A	・概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。	・追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。								
	⑬	単元テストを行う。	B	・概念的知識を理解している。	・追究課題について、概念的知識の一部を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。								
	⑭	意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。【 <b>拡・収RM①</b> 】【 <b>RM②</b> 】	方法	○発言の内容 (⑫) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容 (⑩・⑪) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容								